

Sibelius 2 (6)

編集・調整

ラフに入力しただけでも幸運な場合はそのまま印刷出版できることもあります。やはり音楽は生き物ですから変なところで切れていたり、見栄えの良くないものは修正しなければなりません。

Sibelius2では音符の整列は複数の声部が関与するような複雑な場合でも自動的に処理します。しかし、臨時記号が付いた場合や、和音がだんご状態の時等は音符単位で「水平方向」に微調整をしたい時があります。Finaleではそのためのツールが用意されており(左図)アイコンで18種類の修正方法が選べますが、この中には恐らく一度も使ったことが無いものも有るでしょう。



しかし、よく見ると使用頻度の高いものが上の方に配置されているのはその辺の所を考慮しているのかも知れません。特殊な記譜法による変更はSibelius2では修正ツールを使いませんので、もう少し簡単です。グラフィックなどのアプリケーションでも

そうですが、うっかり意図しないところでマウスをクリックしてとんでもないことが起こらないようにSibelius2でも繊細な修正には修正部分を選択してから目的の作業を選ぶといういわば「安全装置」がかけられています。画面にはいつも音符編集のための安全装置で守られたプロパティが折り畳まれた状態で表示されています。

修正できるアイテムは、上から「一般」「テキスト」「ライン」「小節」「譜表」「音符」の6つです。単純に音符の水平位置や垂直位置、符尾の向き等を直す時は、【音符を選択してから】この中の【一般】パネルを開き、X軸方向即ち水平方向に移動したいパラメータを打ち込みそれで移動します。このパラメータは当然の事ですが±のどちらにも移動します。整列のずれた音符は殆どの場合、この操作でOKです。ついでに符尾の向きを反転させるボックスをク

リックすると棒の向きも変えることができます。



このパネルにはさらに声部を選択するボタン、表示の仕方(非表示にする等)を選ぶボタンも隠れています。一番下の「音符」のパネルと比較してみましょう。



【符頭】ボタンの中に や×などの形をしたものが隠れています。その種類ざっと23種類。勿論入力中に先にこれを選んでおくとその形の音符が入力できます。或いはまとめて数小節の音符を変更できるショートカット (shift+Alt+ 数字) もあります。

複数の音符間の水平方向の音符間隔の調整にはその小節の空白部分をクリックして青いボックスで囲み、次に【shift+Alt(option)+ / 】でその小節を拡げたり縮めたりできます。このようなレイアウトに関するメニューはメニューバーにもまとめられています。



【レイアウト】メニューは小節単位移動とか、改行、改頁のサブ・メニューを持っています。これで、殆どの場合ページ間の移動や整列を行う事が出来ます。

この場合も操作の前に予め対象となる小節などを選んでおくことは当然です。

大譜表やページを特定の所で次に送りたいときにはワープロの改行と同じく【RETURN】キー一発でショートカットできます。

注意が必要なのはこの【RETURN】キーは音符編集をしている時は【異名同音の変更】のショートカットにもなっていますので、うっかりすると異名同音をなおしたつもりがブレークになってしまうことがあります。

また、ショートカットの中で数字を伴う場合は通常テンキーの数字を使いません。

画面の譜表同士の間隔を拡げたり狭めたりする為に上下させるショートカットは【Alt(option)+ / 】ですが、アロ

ウキーの代わりにドラッグをしてもかまいません。

譜表を単独で上下させる時はその操作に【shift】を追加します。

このようなダイナミックな選択や移動のショートカットをいくつか復習しましょう。

小節を選択 音符を避けながらその譜表をクリック

すべての譜表の小節を選択 譜表をCtrl+ クリック

譜表内のすべての小節を選択 譜表をダブルクリック

すべての譜表内のすべての小節を選択 譜表をCtrl+ダブルクリック

譜表内のすべての小節をスコア全体にわたり選択 譜表をトリプルクリック

大譜表パッセージを選択 【shift+Alt(option)+ A】

上で選んだパッセージを任意のオブジェクトまで拡張 shift+ クリック

で選んだパッセージを音符/ 休符単位で拡張/ 縮小

【shift+ / 】

で選んだものを小節単位で拡張 【Ctrl+Shift+ / 】

で選んだパッセージを譜表単位で拡張 【shift+ / 】

ボックスで複数オブジェクトを選択 用紙上で shift+ ドラッグ

トリプル・クリックには参ったでしょう。このように選択するという操作を簡略化することで迅速な作業が出来るわけです。勿論全てを選ぶという操作はワープロと同じ【Ctrl+ A】です。【Ctrl+ C】や【Ctrl+ V】の使い方も同じです。

このように細かく修正したり編集したりできますが、これらのルールを自分流によく使うテンプレートにしたり、標準的なテンプレートを使えるようにする考え方が【ハウス・スタイル】です。最終的な印刷した見栄えはこのハウス・スタイルで決まります。記譜ルールのカスタマイズにより独自の楽譜を出版できるのです。

